

令和7年(2025年)9月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2025年9月 数 量 (トン)	2025年9月 平均単価 (円)	前年同月比 数 量	前年同月比 平均単価
1	野 菜	人 参	北海道産中心の入荷でした。天候不長により生育が悪く、前半は小玉傾向で品質が悪かったため数量減で推移したが、後半に肥大化が進んだ結果、数量増となりました。数量はかなり増加、平均単価はやや高く推移しました。	891	150	144%	105%
2		キャベツ	群馬(嬬恋)県産中心の入荷でした。やや前進入荷で上中旬は大玉傾向だったが、下旬はやや小玉傾向にありました。数量は減少、平均単価はやや安く推移しました。	631	93	86%	97%
3		ト マ ト	北海道、東北中心の入荷でした。高温が続いた影響により数量は減少、平均単価は平年並みに推移しました。	385	608	89%	102%
4		な す	群馬県・栃木県の関東産中心の入荷でした。天候も良く、数量は平年並み、平均単価はやや安く推移しました。	95	391	99%	97%
5		たまねぎ	北海道産が大不作の影響により、単価が高値で推移したが、入荷に力を注いだことで数量を確保することができました。数量はかなり増加、平均単価はかなり高く推移しました。	601	165	121%	140%
6	果 実	ぶ ど う	競合果実も特に多くなく、食味としては良好であったため、全体として値段が大きく下がることもなく、数量・平均単価ともに平年並みに推移しました。	127	1,355	100%	102%
7		りんご	前年と比べ着果が少なく、ある程度の数量減が見込まれていたが、当初よりやや大玉傾向にあり、減少幅が少なかったです。数量は平年並み、平均単価はやや高く推移しました。	103	354	98%	107%
8		な し	内容的には、やや果肉先行気味ではあったが、前年よりは傷み等も少なく食味も良好であった。数量はやや増加、平均単価もやや高く推移した。	339	417	108%	105%

【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+)-0~2%
 ②やや増加(減少):(+) 3~10%
 ③増加(減少):(+)11~20%
 ④かなり増加(減少):(+)21~50%
 ⑤大幅に増加(減少):(+)51%以上